



發句萬

夏惣目錄

夏之上

花	青	鮮	夏	佛	祭	單	裕	四
葵	嵐	鮓	籠	生	物	物	月	月
十六丁	十二丁	九丁		會			初丁	
玉卷葛	牡丹	松魚	夏書	灌佛	大矢數	青簾	白重	卯月
					七丁		五丁	
紫羅傘	芍藥	麥秋	夏斷	花御堂	施米	筑廣祭	夏衣	更衣
	十丁	十丁		八丁		六丁		二丁
玉卷芭蕉	燕子花	麥	古茶	練供養	千團子	葵祭	夏羽織	綿拔
		十二丁						三丁
		十五丁						

夏目録

魚固
魚鯉
魚鯉
魚鯉
魚鯉

嬰粟 十七丁 著莪 十一丁 苣花 九丁 豆花 九丁

風車 茨花 白丁花 美人草 九丁

茶挽草 郊花 桐花 九丁 柿花 九丁

繡毬花 梭欄花 花柚 九丁 橘 九丁

余花 六丁 若葉 若楓 九丁 青葉

新樹 芍葉 藤若葉 葉櫻

葉柳 五丁 夏柳 實櫻 茂櫻

夏木立 六丁 水下閣 常馨木落葉 竹落葉 六丁

藪椿 筍 菴 菴 茄子 九丁

蓼 新茶 葉撰 風呂

郭公 鶯入音 九丁 老黃鳥 九丁 閑子鳥

鵲 北四丁 葭部 部葦鳥 編蝠 北五丁

枝蛙 蛙 毛虫 北六丁 蝸牛

納子 蚤 飛蟻 北七丁

水馬 蛙 蚰蜒 蟊 蚊帖 北九丁

蚊 蚊柱 北八丁 蚊遣 蚊帖 北九丁

夏之中

五月 四丁 皋月 菖蒲 四丁 菖蒲酒 四丁

菖蒲湯 菖蒲刀 菖蒲打 印地打

蓬薺 粽 筐粽 四丁 柏餅

藥日 幟 飾胄 四丁 加茂競馬

竹醉日 虎雨 四丁 花菖蒲 石菖蒲

藻花

萍

沢瀉

四

河骨

花旦見

真菰薊

藻薊舟

四

蓮若葉

蓮浮葉

蓮

苔花

四

夏菊

百合

紅藍花

四

合歡花

四

紫陽花

四

推花

粟花

梅檀花

五

山梔子

南天花

花柘榴

花橘

十藥花

瞿麥

常夏

五

石竹

罌鈞草

酢漿草

萍若葉

蔦若葉

荻草

一ツ葉

覆盆子

桑實

藤實

茶挽草

青梅

五

檮

若竹

今年竹

竹皮散

四

瓜花

天瓜花

早松茸

早苗

五

田植

五

田植哥

五

早乙女

流苗

五

初蟬

五

蟬

空蟬

五

蟬時雨

夏蝶

五

蠅

蠅虎

灯取虫

夏虫

五

螢

水鳥巢

五

水鷄

水札

五

羽拔鳥

練雲雀

鷓川

五

鷓舟

鷓匠

藻打

五

鮎

翡翠

五

鴨子

夏鹿

鹿子

通鴨

五

照射

火串

干鰓

有無日

入梅

梅雨晴

五

五月空

五月曇

五月雲

五月闇

五月雨

五月晴

五

短夜

明易夜

夏夜

全

夏月

帷子

全

过々花

薄羽織

晒布

夏之下

六月

全

水無月

氷室

氷餅

全

祇園會

嘉定

不二詣

土用

土用干

全

虫干

夏日

暑

全

日盛

全

炎天

夕立

夏雨

全

雨乞

雲峯

風薰

扇

全

團扇

汗

汗拭

掛香

全

日傘

簞

竹婦人

抱籠

竹奴

籠枕

涼臺

座頭納涼

涼

打水

全

清水

晒井

全

一夜酒

心大

全

葛水

冷汁

水飯

水粉

全

冷物

干飯

梅干

漆取

全

枇杷

李

楊梅

林檎

百日紅

蓴菜

凌霄花

蘭花

櫻麻

夏草

青芒

釣鐘草

鷺草

忍冬

風蘭

紫蘇

青鬼灯

萱草

麻

綿花

全

夏薺

鼓子花

夕顔

全

青瓢

瓜

胡瓜

新麥

全

田草取

川狩

小鮒

晚夏	夏川	夏雲	川社	夏神樂	籍釣
		孕	月涼	御祓	沖鱒
	夏海	夏山	露涼	茅輪	晝寢
		志たる山	夏水	形代	夏瘦
			秋近	夏野	夏坐敷

發句萬題集夏之上

冬至庵庚年 輯

おもしろい出来事本なる雲霞

四月 おもしろい出来事本なる四月の梅より

白雪の川や四月のよー山 燈外

朝起もあまふれ四月の那 成美

山中是く山乃根造り四月の那 岳格

山を新書くいふ出歌四月の那 卓池

旅人のいひ人おくる四月の那 平波

さく波のあゝえと暮る四月の 瑞山

夏

草山より四月の月を四月の那
 人あせし馬の汗を四月の那
 鳥なくや四月の山の明らる
 此頃の如き才を志む月を那
 山峰や月を那の雉子の考
 鉄炮の遠きよらる月を那
 産物よと考ふ舞上り月を那
 為月の本居よと考ふ月を那
 古今も生魚の考ふ月を那
 月を那や那むしり月を那
 洞鳩の友つれ那り月を那

永谷 素柳 鶴鷹 尚白 錢芷 野經 梅空 白起 里松 寒松 平山

更^刀夜
 内川の汐も月を那り月を那
 一つ脱て〜〜〜おひぬ夜を那
 塩魚の〜〜〜や夜を那
 西行の娘も〜〜〜夜を那
 夜を那へ山を那り月を那
 夜を那へ〜〜〜常の那り月を那
 夜を那へ〜〜〜や〜〜〜夜を那
 揮除〜〜〜更夜
 櫛一つを那り月を那
 酒香のひも〜〜〜更夜
 け〜〜〜父の〜〜〜更夜

貞夜 七七公 辰雪 支考 乙由 辰蘭 那坡 仁里 葵右 暁臺 士朗

夏 二

衣のへ松をまとつてきり
襟をよめ言飛らぬや更衣
き指ひよいとくれけり更衣
祝ひやちとまげれと衣のへ
よいとらね能信ねや更衣
世より先へつたり更衣
右師より次中へ先へ更衣
衣前よりきり新や更衣
衣のへ襟もよとくれけり
山も人も衣のへきり
ひる道やゆもせぬ身の中衣

外六
南枝
一魚
真山
一仙
二丘
梅室
柴英
傘下
山外
園更

其かよとく人なり川衣のへ
是をく一這ふ子まうと更衣
お通るもはゆやと衣のへ
きりよと打ひそめや更衣
とら子やほまらあひと更衣
人井へ旭とくけり衣のへ
きりけり襟のゆや更衣
若の香ねあつり更衣
如衣川のあのをと更衣
更衣はよやあやと更衣
あつとく魚やけり更衣

冬村
宗瑞
宗園
秋白
尚白
乙二
蒼帆
三道人
有長
健高
卓池

綿抜

くまひうちをきき持て玉衣 武衣 袴年
 わるぬきやけつ区さらの嫁のふ 楠芽
 わる抜くあふたさきやぶの多 其薙
 綿抜やそくそねおの怖しき 千代
 わる抜く千もさきまのあふり 梅室
 綿抜やけつ本のおれお生お 丁心
 くる抜くあふお中かく思ひ先 号阿
 綿ぬきやけつあささきし枕もや 幻芝
 一と抜く後さきや玉本より 其南
 一と抜く人あささきと例と後れ 百明
 朝りあささきひよささき後れ 吾仲

袴

一と抜くあささきと例と後れ 鬼貫
 二と抜くあささきと例と後れ 千代
 門退る後さきひよりあささき 一具
 袴さきひよりあささきと例と後れ 沙路
 出ささきひよりあささきと例と後れ 抱儀
 商人の二際さきと例と後れ 千緒
 帯入の右左撥さきと例と後れ 松竹
 ぬき後れと例と後れと例と後れ 二五
 是元のお石蹴あけ後れと例と後れ 其流
 わるひさきと例と後れと例と後れ 吾仲
 出先り後れと例と後れと例と後れ 素柳

其のこ子の息をきりけり後れ
 日海りの旅冷つけと後う那
 後きそ別よふらやる扇の
 窓の暮るをりそ見物後う那
 後うらくそ見物後う那
 三十月の入まきれーとら後
 きりあぬきけあまの息を後れ
 戸口うら見物後う那
 旅人一日まきれとら後
 あらうらうらうらのせり物後
 後きそ後ーけりそ東門
 行あつた人もいり後
 息やうらうらうらうら後
 店先をうらうら見物後う那
 たみぬをうらうら後う那
 息後うらうらうら後う那
 なうらうらうら後う那
 後きそ見物の人の息いり那
 楊子うらうらうら後
 柳うらうらうら後
 宰領の息をうらうら後う那
 子の息をの伸しけり後

貞祇
 岸之
 赤月
 槐堂
 鶴年
 山高
 松軒
 獨醒
 井井寺
 佳吟
 梅室
 一
 飲裁
 喜路
 流吉
 浮羅
 護物
 斗笠
 糸條
 悠々
 枕台
 東溟

其のこ子の息をきりけり後れ
 日海りの旅冷つけと後う那
 後きそ別よふらやる扇の
 窓の暮るをりそ見物後う那
 後うらくそ見物後う那
 三十月の入まきれーとら後
 きりあぬきけあまの息を後れ
 戸口うら見物後う那
 旅人一日まきれとら後
 あらうらうらうらのせり物後
 後きそ後ーけりそ東門
 行あつた人もいり後
 息やうらうらうらうら後
 店先をうらうら見物後う那
 たみぬをうらうら後う那
 息後うらうらうら後う那
 なうらうらうら後う那
 後きそ見物の人の息いり那
 楊子うらうらうら後
 柳うらうらうら後
 宰領の息をうらうら後う那
 子の息をの伸しけり後

貞祇
 岸之
 赤月
 槐堂
 鶴年
 山高
 松軒
 獨醒
 井井寺
 佳吟
 梅室
 一
 飲裁
 喜路
 流吉
 浮羅
 護物
 斗笠
 糸條
 悠々
 枕台
 東溟

白重

祝はる侍うらうらう白重

飛雪

白重うらうらう皆中よその人

蓼花

白重うらうらうおや明ん

一人

夏衣

暮の服を穿けりけり衣

蕉光

積立くあまうらうらう衣

一映

夏羽織

羽織く見えて居りける羽織

三山人

羽織くあまうらうらう衣

百七

單物

うらうらうの夕敷くさぬ單物

若人

五位

五位六位を穿けりあま

若人

あまうらうらうのうらう

若人

うらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

あまうらうらうのうらう

若人

夏

六

届状もせんくけやきもこれ 吉

筑之祭 古籍といふれく易きなりこれ 護物 乙也

くさくさくかかきくきや籍二つ 小圃

籍あり母り合せくおきけり 警也

葵祭 碓越り一葵さむく一白ひく那 去来

具外山真く一葵乃ありこれ 標良

下々の下くさく一葵ありこれ 暖臺

祭 富階やきくさく後々のきくひひ 其角

淋くさく人やくさくさくこれ 高白

庭きく鬼も舞くさくなりこれ 古庭

平ふねありうへの白ひく那 新共

まきく先くさくさくさくこれ 永年

若武志や留門と移くさく 左記

大矢数 移りけのりくさくさくさく 菴字

清く打くさくさくさく大矢数 菴志

赤きの舞先くさくさく一矢数 南枝

施米 入りり施米の庭の砂埃り 一映

子園子 ねとさくさくさくさく子園子 詠留

御生舎 ちせは葉の磨ひくさくや併生舎 乙由

岸の葉もあけたり併生舎 由誓

ぬれくさくさくさく海王や併生舎 丁知

お人さくさくさくさく併生舎 旨足

タ
ブ
ツ

瀧
佛

外の花形せむく白れ佛生舎
少姓ももくもまけり佛生舎
眼のまゑく薩ましくおや佛生舎
臺所もくもくもくもく佛生舎
瀧佛や船子今まき結珠のま
瀧佛や旗子別もり兒
瀧佛やまや入おの大佛
志願うけし佛こころ旭の
天窓うく其き佛の春源年
方こそ佛の生れぬひけり
瀧佛やついほて居る春の年

玉圃
糸之
米甫
波同
ませ
其角
百里
深更
完来
日人
小柯

花
法
堂

瀧佛や旗を起し候くもひ
瀧佛小用く免く出る田舎の
いづくの軒のまや花法堂
君う代や四る八十花法堂
花法堂人のくもくもく那
四方くもぬれけり花法堂
川原のくもくもくも
花法堂は一目れま手おろ子
地陣のよきうくもくも
子を控くも花法堂のまら
あつてくも物のけり花法堂

左
右
乙
今
一
由
花
節
玉
若
和

類

練供養祈りくやうきり奥村山家うれ
夏 籠 なるまきりきりくまきり一重
白 旗

夏 書 舟の回きりま伊りやるまきり
一 映

似城のなる虫やきりやる念併
其 角

夏 別 なる虫きりきりやるきり
重 厚

古 茶 古茶きりひともりきり廿年
文 遊

別 別れは仁舞や襟の別り
本 園

別 別梅や別れぬともり後の
宗 園

別 別なる虫きりきりきり
東 翠

別 別なる虫きりきりきり
乙 乙

別 別なる虫きりきりきり
篤 老

別 別なる虫きりきりきり
嵐 空

夏

乙

月之けや別魚の背きけの節

百 明

少きくくく海魚ぬりぬり松魚
 せりくく強念のく初松魚
 板のく松魚を盗人くく松魚
 あけあけのや松魚くく初松魚
 初松魚書せく扇くくくけり
 二人くくくくく松魚くく松魚
 くくくくくくくく松魚の
 初くくくくくくくく松魚の
 菊くくくくくく松魚
 さくくくくく入松魚くく初松魚
 くくくくくくくく初松魚

松魚
 大江丸
 暖臺
 三浦人
 由松
 菊
 貞祇
 多
 花外
 可吟
 毒文

梅
 内川くくくく松魚
 急なくくく松魚
 侍のまけくく松魚
 あけくくく松魚
 漁くくく松魚
 入り松魚くく松魚
 初まの松魚くく松魚
 菊くくく松魚
 松魚くくく松魚
 菊くくく松魚

梅宝
 白起
 卓池
 吉白
 松竹
 丁松
 卓郎
 一幽
 英父丸
 百也
 成年

秋 舟の痛く松魚の光るのれ
 初松魚と雲と人の暮年
 雪の冷つく初松魚
 初づらも白の淋とわかれけり
 一足く口果報なりとら松魚
 とけし場もつぬ滅のころを
 行脚の麦より今むやうに
 家のむね麦や穂を知らぬの秋
 麦うみや肉おもなき志望の里
 泡盛も子もんをけり麦の秋
 麦秋や赤あんと一人前
 惚挿のま度をつらや麦の秋
 ころころの船よりのや麦の秋
 ぞろぞろとつら物や麦の秋
 子をつれし人をもあき麦の秋
 麦秋や豆腐のきれむの宿
 さとくささくささく麦の秋
 宮古もひらりたり麦の秋
 馬もよみ舞ふ人麦の秋
 不幸もよみ舞ふ人麦の秋
 舟のふも人あき麦の秋
 麦谷ぬ人麦の秋

應
 子
 松
 乃
 蘇
 抱
 像
 里
 妻
 女
 山
 外
 丈
 学
 重
 五
 浪
 化
 百
 明

惚挿のま度をつらや麦の秋
 ころころの船よりのや麦の秋
 ぞろぞろとつら物や麦の秋
 子をつれし人をもあき麦の秋
 麦秋や豆腐のきれむの宿
 さとくささくささく麦の秋
 宮古もひらりたり麦の秋
 馬もよみ舞ふ人麦の秋
 不幸もよみ舞ふ人麦の秋
 舟のふも人あき麦の秋
 麦谷ぬ人麦の秋

本
 藥
 尚
 白
 一
 具
 蓬
 宇
 波
 因
 幻
 芝
 由
 櫻
 野
 菜
 何
 指
 外
 山
 骨

夏

二

麦

麦秋やまゝ 穂より 南カ石
むらあまや 桑宮殿りの子泊
あはれ此もむらりのうら也麦の秋
うらむらあまの白月や麦の秋
麦秋や 風呂のわらふと穂をこ
あけ出よこの穂とをむき穂
穂より麦穂いよや作とり
秋よりのもま叫や田麦より
背戸の麦うらむく一日あつた
あつむと麦のわらや白の國
穂よあれハ一息も秋田麦うら

完穂
莖窓
素樸
古甚
夷則
玄索
荊口
月庭
赤月
柳下
乙二

長春風
長春風

信古世一山の依みの麦もむら
一帯あわや鳥羽田のあつ穂
麦の穂よをのさあつた居れ
長春風やあ神幣のふもくと
長あつし空つとまや苗乃を
むらあつたそむら穂あつし
長あつし吹や山流の葉もむら
注連縄もむらもむらや長あつし
長あつし只やと外一長あつし
肉流も流うちあけく長あつし
石川や流せはるとむらあつし

成英
之益
呂川
一映
卷堂
士朗
益元
貞祇
通甫
山外
山推

牡丹

坂下つゝ花をまはしやあはし
 引のや庭もさし—
 空たひし山田をんそまあらし
 杖の根よりささる浪やあはし
 傘の根よりささる雨やあはし
 常も花をまはしやあはし
 掃るは花の先やあはし
 我より花の細きなりやあはし
 幌帽の静まりやあはし
 古庭よりありありやあはし

提月
 竹根
 蘿唐
 文遊
 子輪
 丁知
 東海
 古世
 鬼貫
 許六
 嵐雪

廣庭よりささる牡丹の影
 ちり牡丹やささる牡丹の影
 踊子の笠をささる牡丹の影
 花をまはしやあはし牡丹の影
 切をささる牡丹の影
 ちり牡丹やささる牡丹の影
 牡丹ありとひとあはし山の上
 海山のけしきもあはし牡丹の影
 墨墨くささる牡丹の影
 提くささる牡丹の影
 今一花越ささる牡丹の影

初月
 白鳥
 交考
 子代
 大江丸
 蒼帆
 卓池
 高洲
 風朋
 抱儀
 丁心

西面よまくり日のおん牡丹うれ
閑山乃あくり名り牡丹うれ
うーろくく菊く雨の牡丹うれ
山風のふくや牡丹の花乃嵩
引控く傘きーまき牡丹が
卯广を案すりまき牡丹奉
礼云上掃手を祝く牡丹うれ
刻り和つまきの牡丹うれ
小菊ーまき牡丹うれ
菊きまき又一ーかの牡丹うれ
二三輪咲く雨のあき牡丹うれ

赤木
西月
岱充
千格
文昇
亨
貞祇
完徳
演吉
速月
新

花前よまきのあき牡丹うれ
あきまき睡香引あき牡丹うれ
あきまき牡丹うれ
二ひーまき牡丹うれ
新うおまきを流さき牡丹うれ
一まき牡丹うれ
菊きまき牡丹うれ
甲子の燈心うれ牡丹うれ
日々軒よ花のうれ牡丹うれ
淋しうや牡丹うれ牡丹うれ
牡丹うれ牡丹うれ牡丹うれ

扇和
任年
一尚
助宣
派芝
荑窓
菊之
英父丸
左尔
蘭和
眉英

夏

十四

シヤリ
ヤリ

芍薬

一重敷く人驚く牡丹の那
随まきうけ葉をまろひ牡丹が
ふれまきうけく牡丹のむけう
遠くまきく大登りく牡丹のれ
銀のあくるを眺く牡丹のれ
障望くくくくく牡丹のれ
芍薬や路のまきく芍薬のそ
芍薬よりき十葉の茂りく那
芍薬や終度くくく芍薬の井戸
五六代芍薬くくく山家く那
芍薬や籠くくくくく那

梅室
梅通
護物
奇月
風也
鶴年
交考
尚白
折雅
士朗
道彦

燕子花

杜若のそくそくや竹のそくそくの影
のそくそくそくそくそくそくそくそく
けくそくそくそくそくそくそくそくそく
やそくそくそくそくそくそくそくそく
そくそくそくそくそくそくそくそくそく
田舟くそくそくそくそくそくそくそく
杜若のそくそくそくそくそくそくそく
有るそくそくそくそくそくそくそくそく
かそくそくそくそくそくそくそくそく
汐風のそくそくそくそくそくそくそく
水そくそくそくそくそくそくそくそく

其角
玄素
菟雪
文学
江月
鳥翁
山外
永年
梅通
杜若

夏

十五

菖子花ひくくや松乃ひと平
 初花と舞うくや杜若
 洞室のむすめやまきと
 澄濁るる隙く川やけりも
 菖子のゆけりおろせや杜若
 送るるは挽く通るや菖子花
 落しゆく貫つれけり杜若
 けりぬひもくはんまは杜若
 挽くもく一は来るやけはく
 くれと菖子と二度と菖子杜若
 一りく今年と切くは菖子花

菖 礼
 吟 露
 由 挽
 春 文
 素 樸
 其 流
 槐 堂
 九 菊
 獨 石
 之 柱
 岱 年

是角の活くはぬきつもく
 菖子のけり梅へ扇をや杜若
 芝居や田かきあけり杜若
 切くもくはぬきつもく
 池平の妻はけりけり杜若
 菖子のむすめやまきと
 切くもくはぬきつもく
 杜若はけり梅も居たりけり
 海山の國ひあけりけり
 菖子と舞うくや杜若
 菖子けりやまきと杜若

梅 室
 菖 礼
 氷 狐
 白 詠
 子 輪
 悠 々
 一 宵
 木 木
 白 樂
 淡 吉
 匡 流

花葵

一まゝ切つては是も慈子也
供木のあけくも修や杜若
急ぐて咲くのありし葵は
那もよむたふのまらゝ葵は
管ふく一白の夕アやあつひ
まのくゝまゝく里のあつひは
居酒屋のくふく成り葵は
葛のまゝ葉はやうく葵は
紫羅傘 一八やまれの細うと活くま
一八や 免峰つく居松の上
玉巻芭蕉 日の暮り集く玉巻芭蕉うね

梅 通
完 徳
才 磨
岩 泉
仙 化
純 可
幻 芝
曉 臺
青 川
三 岳
小 巖

今し

嬰粟

白けしやめ白のむつらん
舟葉の一漬るまやけし
いくちの世よきわいせけし
押合ぬ先へちうけしけし
陸風よ祥を合けし
散除る風よつめけし
まゝちぬけし
頂まよまけし
松のけやちまよまけし
たうのりやけし
白雲のやけし

ま 雲
玄 来
支 考
舎 羅
智 月
其 角
系 更
曉 臺
士 朗
舞 美
完 結

夏

十一

うらむ家かうらむけのそ
月さそ淋く甘うぬけのそ
あけて戸のあつとらやけのそ
陣中や響新屋の灯けのそ
咲かう一ひつちやけのそ
風鈴やけのそ
とらくとほつちやけのそ
夜あさあそらけのそ
ちる手際んせよまけのそ
た身れよ八重たはちけのそ
あけしやけ白けけけけけ

貞祇
多よあ
金想
氷瓶
幻芝
子格
抱儀
梅室
老白
江三
皎雪

けけけやうらむ家もたき
切らちもあちやうけのそ
けけけやほ家室と相隣
けけけ一人けけけ先有り
目もたけけけ切んやのそ
何うもたけけけけけ
けけけ女もやけけのそ
けけのそあけけけけ
々々々のそけけけ西口
白けけや隊のそ遠まの底
散つてけけのそ一ツ

東之
赤柳
蓮座
拳畫
心阿
是非
蘭和
清氏
とよあ
若風
素樸

著莪
菖花

花けしやさきかきうよむねおける
ひとのまや十かきうけしつた
移ぬひしそ西ふしけしつた
浪陰の垣ももろけしつた
一りふあきまきけしつた
けしつたやちるや陰まの襟裾ひ
けしつた本持てあきしつた
おしつたおしつたけしつた
猶もろきまねあけしつた
とろくと著莪あきつた
けしつたあきつたけしつた

乙二
百助
杉軒
茂推
卓池
鳳朗
乙居
慈光
荻礼
梅通
際夢

豆花
風車
萩花

押あきよあきけしつた
蝶の夢むまきつた
おしつた古口のそよけしつた
おしつたの煙りつた
あきつたあきつたけしつた
萩のそよけしつた
繩けしつたあきつた
山そよ馬もろけしつた
あきつたあきつたけしつた
材甲しあきつたけしつた
先住のけしつた

警あ
巴文
尋村
若礼
卓文
丁心
子粘
位月
一具
文遊
小圃

美人草 蝶より花をうつと如く美人草
荃扱草 くらくとりひく花や荃扱草
卯花 卯のまねやくらく紅柳の及ぶ

卯の花の維多利亞かん園乃門
卯のまね上荃毛の駒の相成り
卯のまねやしらねの法外か
卯のまね上つとまをいふおどろ
卯のまね上降り歩りやぬれ嵐
卯のまね上いのり照らすくらり
卯のまねや月のちうを忘れる
卯のまねや異なきまを垣根越
卯のまねやあそびるれおれり
卯のまねのまねれぬ家となり危
まねまねく卯のまね川むく
何処ゆく卯のまねつむ少
卯のまねや床へあそびて蟻の
卯のまね上押あそびる戸
卯のまねの上りまねえ少
卯のまねや次く垣の深
卯のまねやあそびる底
卯のまねや法外いそぎ網
卯のまねや星をけうるあたり

川
映
一
雨
考
七
世
法
吉
来
汗
上
其
角
於
風
之
是
交
考
聖
被
貞
祇
荃
肌
由
換
子
糶
素
樸
二
丘
如
松
月
槩
葉
人
夷
剛

江戸

卯のむや牛のきくさむね
卯のむや出代さむ男
換振卯のむやのりわ
卯の花乃時うてんや修家
卯のむや志しと垣ひ男
卯のむやの中うてん
卯のむや二階のちりのき
麦や——人の卯のむや
卯のむや人うてんや
人やうてんや相乃
大の子のむや相のむ

洗我
梅令
一具
卓池
士朗
株菜
外外
乙二
梅宝
保吉
洗我

桐花

榊花

卯のむや牛のきくさむね
卯のむや出代さむ男
換振卯のむやのりわ
卯の花乃時うてんや修家
卯のむや志しと垣ひ男
卯のむやの中うてん
卯のむや二階のちりのき
麦や——人の卯のむや
卯のむや人うてんや
人やうてんや相乃
大の子のむや相のむ
卯のむや牛のきくさむね
卯のむや出代さむ男
換振卯のむやのりわ
卯の花乃時うてんや修家
卯のむや志しと垣ひ男
卯のむやの中うてん
卯のむや二階のちりのき
麦や——人の卯のむや
卯のむや人うてんや
人やうてんや相乃
大の子のむや相のむ

梅井
素樸
慈光
竹節
稻海
奇潤
方老
南枝
清丸
其翠
三園

榊花

古寺や僧がうらひさるるむ

夏

十一

花 柚

掃 どののたひり初かり桜桐花
柚のちよと昔志のらん神理のち
行家さうあんと柚と昔志のち
柚のちよや庭へたりと序あり
盃と碁もとく免るれ柚うれ
今汲し川名にけりれ柚うれ
柚のちれの庭中白くや緒四
葉うくわ中葉あつても柚のち若
いと枝々葉いほつるも柚うれ
む柚あよううへく庭の蓋かき
垣越しと柚のち白く小白の那は戸

庭江
古紙
言あ
彫棠
舟舛
丁心
九菊
籬庭
葉あ
白権
雲山

余 花

秋のうらさき多きを修るれ柚うれ
四五梅の余ちよもあつるれ
日ち山へ入けり余ちよ一あつる
若葉あつる風や昔の刺しと
とくさきとさきあつるれ
いとあつるれとさきあつるれ
夕立よさき葉のちのわさきあつるれ
さきあつるれとさきあつるれ
柳のちあつるれとさきあつるれ
舟の碁さきとさきあつるれ

玉枝
午心
右翁
慈光
嵐雪
其角
定良
荊口
帷然
哉人
三巴

眞とひとも又とてりては美事也
 桜人の葉子初と出ても美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也

風也
 節之
 多上女
 塚元
 由控
 抱像
 梅室
 恒来
 住年
 平波
 慈光

能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也
 能くもすのらひとて美事也

礪山
 蘭香
 梅枝
 井梧
 手格
 住年
 我老
 麻交
 折承
 而后
 宗嗣

よみ
楓

初句の邊々、ゆききききききき
 かけもゆき、きききききききき
 古くもゆき、ゆききききききき
 川つゝもゆき、ゆきききききき
 舟もゆき、ゆききききききき
 入おのききききききききき
 船もゆき、ゆききききききき
 八重のりきききききききき
 初梅もゆき、ゆきききききき
 めつゝもゆき、ゆききききき
 一羽りゆき、ゆきききききき

ちりや
 鹿洞
 東溪
 山寺
 菊以
 大梅
 丁世
 一香
 京文
 五渡
 田風

信正のきききききききき
 馬もゆき、ゆきききききき
 美楓もゆき、ゆききききき
 筆もゆき、ゆききききき
 おもゆき、ゆききききき
 風もゆき、ゆききききき
 舟もゆき、ゆききききき
 わり楓もゆき、ゆきききき
 火用心もゆき、ゆきききき
 折もゆき、ゆききききき

其角
 卓然
 曲蒙
 一画
 号蒙
 沙鷗
 有岳
 南溪
 抱像
 茵和
 志柳

炭

月の底いつらあやなく梅の夜
わひさうと梅やくえり梅の夜
居るくく梅の子家や梅の夜
わああこれ坂のまゝや梅の夜
夕茶や梅りうまう川の吉
傘の音して梅りうの那
推量の面よりそある炭里うれ
舟出せえまう人のあつ炭りれ
うまけく礼をそそ炭りうれ
宮書おあきけきく炭りうれ
まきお梅年か炭里うの那

梅 哉
夫 則
丁 火
一 魚
火 草
土 芳
子 糖
以 三
鶺 鴒
梅 室
九 菊

夏木立

いふふのなほく梅りうれ
これの時折くをれく炭里い
相ゆく梅里うり炭りうれ
まぬのく梅物けく炭里う那
舟場とらおひいすぬ炭里う
まのう心推の木まあり夏木立
地の葉とあつ手りの也夏木立
梅里うの浅葉とくや夏木立
神よりくく宮もんて夏木立
梅梅くくアとて夏木立
神明をわく神家や夏木立

並 光
素 樸
素 伯
江 月
雨 堂
ま 世 派
鬼 貫
希 因
景 文
子 崖
乙 二

里のけりき勢りぬる本立
木下園 下善や地悪かゝの標のきり

牛乳服のきり山路や木下園
下園や居風呂と焚火の味

木下園とる里正きり名なり
あききりもちりや木下善

隣への往來きりぬる木下園
具りきりきりきりや木下園

常盤木の落葉は流しや浪きり
常盤木の落葉は流しや浪の流

ちりきりきりきりきり
木下園のきりきりきり

大木と柳きりきりきり
木の子やまきりきりきり

井の子や板敷の床のきり
あき月の木のきりきり

名跡とるのきり木の子きり
争のきりや権乃きりきり

争や笛よ今きりきりきり
木の子や新跡きりきり

木の子とる丹精や人きり
木下園

野萩

嵐雪

白尾

多美

松海

萩

悠

史子

文編

詩所

一映

浪

嵐雪

鬼貫

去来

卓池

丁

護物

波

梅

室

落

ちよや筆作のたるくつり
外の子や赤や世数も頭く
外の子よ紅くおのあふ月おれ
外の子や親子好色く垣の外
外の子や紅おちく五六寸
外の子紅其りを長く待きそり
外の子を若くせざるおちる
外の子や成ても紅一ののく
子よせうといへる世もさき
子附やふきの葉ありの蔓も
何ひのくやや落の隙のきぬ

梅令
遠流
榮子
船村
右底
南枝
山外
山外
乙州
波村
曲翠

サカ

れいさく鬼州あまのさき
櫻の身よけりさきさ子の那
昔もまきさきあれつやさ子け
赤色もあれけりさきさ子
公説のめもぬさきさ子初さ子
赤朱もあれさき他さ子さ子
手紙もあれさきさ子初さ子
隣もあれさきさ子初さ子
はありさきさ子初さ子
小灯もあれさきさ子初さ子
あつさきさ子初さ子

涼菴
為有
北枝
梅室
洗我
素樸
燦二
礪山
送夫
右節

落

新茶

園書もあさぬ涼下の新茶は

支考

風よ春のついで吹き新茶の

園女

残るるせ新茶は第一忘るる

一映

茶撰

橋の戸もう川もさうな茶撰は

嵐島

大鼓をいふとさうな茶撰は

史那

風呂

な風呂や清おもさうな風呂

宗因

風呂の茶のなる目さうな風呂

重房

郭公

布さきん考撰うやあの上

其角

布さきん一二の撰のねりぬ

嵐堂

以燈を月のねむむあさきん

志来

わさきんたうやあさきん文字

撰燈のさうな撰り

於風

わさきんたうやあさきん文字

文草

口さうなあさきんたうやあさきん

宗鑑

ねの流灯白くわさきん

鬼貫

たうなあさきんたうやあさきん

白

ほさきん其のくの物さうな

傘下

くさうなあさきんたうやあさきん

素堂

目さきん茶山布さきんたうやあさきん

於風

あさきん一考さうな撰の考

惟然

石菖の新茶あさきんたうやあさきん

許六

四五月のうたうなあさきんたうやあさきん

谷越しやう吹風の困子鳥
 山あふぬ森のありや 宋子鳥
 学政く其ま成つて 宋子鳥
 関子鳥の考ふ極く山路丸
 淋しみの風を流るや 関子鳥
 宋子鳥のやきあふはあり
 け先へ出つてはちや 宋子鳥
 山と垣根へあつり 宋子鳥
 向う打つてはあふ 宋子鳥
 日北長い其只中や 宋子鳥
 朝起をまはるや 宋子鳥
 そうしては細川や 宋子鳥
 言古能翁往けり 宋子鳥
 宋子鳥のやちや 宋子鳥
 茶のゆきまの長きや 宋子鳥
 糸子鳥のやちや 宋子鳥
 日北照るとそのやちや 宋子鳥
 糸子鳥のやちや 宋子鳥
 日あつては出やうと 宋子鳥
 糸子鳥のやちや 宋子鳥
 曲突のやちや 宋子鳥

乙州 其角 正秀 鬼貫 遊詠 蝶夢 是夫 大梅 住年 叢 万葉 影古 匠流 水瓢 子格 素樸 輪洲 控月 貞山 鳥谷 平波 籬産

夏

三十四

竹を切らぬやむいのか房をあらざる
 塙塙や月のあつらふと立さる人
 かきあがりよきえまうしし油賣
 塙塙や百日の原廣邊歌
 かきあがりよき大家や鉄以焼
 風よけの本をあらう枝枝
 本のかきまきりくく枝枝
 空をさらふ風日はたけや枝枝
 風よけまきりくくあらう枝枝
 是れ。たけくく和りよき也雨枝
 滴りよきの葉もあらう枝枝

毛虫

蛙

枝

蛙

号村
 曉臺
 北枝
 一具
 百明
 保吉
 英父丸
 美能
 古也
 涼派
 一具

カクツツ

蛸

蛸牛角よりわけよ須磨の石
 枇杷の葉をとれらるる角打き蛸牛
 志く露や角よ目とも川蛸牛
 我むくくくくくくくくくく
 白くくくくくくくくくくく
 世の中を換く相りかた蛸牛
 くくくくくくくくくくく
 さらさらハ売のきくくくくく

夏

三六

牛左
 南枝
 東海
 其角
 鬼雪
 鬼貫
 古也
 二空
 助宣
 梅令

水馬

夕立のあつを推すや水馬
橋下をうの送まわあつ

蛭

草花の地血を引く地口の
森をよるや一蛭をくけり

虫蛇

何れをくくくくくあやう虫蛇
這ふや引りまきうきぬ虫蛇

蟻

這出せようのあつ下の蟻の考
あつあつあつあつあつあつあつ

飛鳥くくくくくあつあつあつあつ

蚊

わうあつあつあつあつあつあつあつ
蚊のつづきあつあつあつあつあつ

山里の蚊を屋敷にうきあつあつ

一筆あつあつあつあつあつあつあつ

屋の蚊や机の下蚊のうきあつあつ

空の蚊や伐切らぬあつあつあつあつ

けりあつあつあつあつあつあつあつ

蚊の考よあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

つづきあつあつあつあつあつあつあつ

蚊の考よあつあつあつあつあつあつ

蚊柱よあつあつあつあつあつあつ

蚊柱の考よあつあつあつあつあつ

水馬

枝玉

為有

浪都

南波

慈光

たつあつ

虫蛇

菩本

あつあつ

蚊

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

致巻

故柱やぬけぬえんき元のみ
 旅舟へくまわ終る葉の故巻は
 故巻に舟や斧の女の石をうけ
 かやうとや懶物ううと老つ人
 故より移故きうの多きをあか
 月影を只まのちる故巻うれ
 居まれば又風替る故巻うれ
 故巻禁地去やまの故巻
 せやけのまもまきん故巻うれ
 川風のまもまきん故巻うれ
 掃先の地のみかや故巻うれ
 伐おりの庭木をまき故巻うれ

淇石
 古来
 嵐雪
 其角
 抱倚
 梅室
 多よ女
 永保
 函坂
 白起
 風洞

致帖

故巻うれくそくろく庭をうれ
 居洲深く客うれ好む故巻うれ
 三月のふもも待ぬ故巻うれ
 昔伝へ姥り戸口の故巻うれ
 つつらみ慰むおとの故巻うれ
 本仲うれ故巻うれいさや庭の奥
 け先このうれ入けり懶のうち
 手枕や月を布目の懶のうち
 物そ免く懶西白き月敷うれ
 涼しさの外うれんえん懶の中

籠居
 在尔
 鳥津
 大費
 船村
 蒼乳
 卓丈
 文草
 智月
 言ぬ
 永年

以燈と机も入敷故帳の
耐出くそ星くつ和るりけり
如くの時物く尺と和く故帳が
猶立や子と棒のこに杖故屋
屋の改屋為とよけとと物せけり
まとも空ともつら此耐の中
以燈とと居越りる故帳の
是えとせぬそとと望耐の月

淡吉
鶴駕
一肖
一具
梅令
手格
欽哉
梅室

發句萬題集夏之中

冬至庵庚年 輯

八雲東溟 校合

五月 初身を虫能責る五月の
麦わくは上ふむ里の五月の那

凡兆

夕雨のおそくつけし五月の那

渭川

以先と秋の指とあはれ五月の

士羽

各季と毛の書とあはれ五月の

外六

拍きつる日冬雨白く五月の

本年

舉月 同日初身の時と評更年五月の

七世氏

茗蒲

雨を能く山極へ續く一擧月くれ
かこむ起るけりや五尺のあやめ草
志より尾の長家くくあやめれ
勢より樹もあやめ免ふきうの志
屋板ふ起となくんく昔るあやめ
昔てあ乾門く志のやあやめ
あやめふけ目ふのふこのあやめ
をかーやれ海の中ようくあやめ
庭中を過き田あやあやめ
幾度と蝶ひくくや軒あやめ
向ひのとはん世くあやめ

善光
おん法
卷雪
鬼貫
具角
梅室
乙二
成美
南校
谷元
秋哉

茗蒲酒

廿とすく一隣歩りや茗蒲酒
於湯く似誠句ふあやめれ
村中り空の湯く入あやめれ
一つく温る壺の中あやめれ
君り代のくあやめり刀の那
あちくあちく使てんあやめり刀

慈光
新身
若風
白粉
礪山
白雄
言名
汁送
完徳
見推
貞祇

夏

四二

葛蒲打 似とくいしとて名やあ打
印地打 子と似とる子たつともや印地打

年よとま人の中や印地打
おりの人よあれ印地乃て石

菖 菖蒲 浮遊るるりせねと菖を者よけり

粽 粽 粽結ふ片もともさむ故 粽

ぬも外一口よまかり 粽五地
ともたつとも粽ともけりり 産中

山菅の徒ひ目をうねち手記籠
巻長くしてつこのち手記のちあれ

とく前よつみやうるる粽え
はつと手と考法のつち手記は

粽とくまよつけりち手記あ
ち手記ゆち手とるりてんてん屋は

今おろす肺とてけりぬち手記
湯舟のつちち手記意家てんてん

梓さうとけりや小舟のち手記五地
世りけりてんてんてんてんてん

善 善 善 善 善 善 善 善 善 善

雨りりてんてんてんてんてん
投ゆてんてんてんてんてん

一 映

仙 化

溪 石

嵐 雲

蒼 札

ち 世 成

鬼 堂

路 通

加 一 之

松 下

二 晶

淡 吉

小 柯

山 菊

朱 葉

梅 室

石 橋

書 之

龜 歌

招 海

朱 菱

乙 二

柏餅

竹翁まらやまに危柏餅

抱琴

まらくくとま桑のま新柏もち

南枝

薬日

折々のけりけ別そ草餅

一映

懺

おあやめ懺とわゆるあしし

其角

松れまきけりけ世の懺れ

交考

子孫若の分別るゆる懺の那

蝶菓

あ新時を風えまゆる懺の那

右派

雨や終るまらくこのまわゆる

我竟

遠けきそ静さんゆる懺の那

涪

男とけりけ居る子ゆる懺

六蟬

二階のりけりけゆる懺の那

山外

蕨の出這入りけりけゆる懺の那

山外

師胃

常世か古まゆる胃の那

葵右

草の戸よりけりけゆる胃の那

澁右

加茂競馬

競る境の身のいさみけり那

其角

人の世よりけりけりけり人馬

山川

とくゆる庭よとあゆみあり

葵右

わらわゆる人か庭よけり人馬

梅室

あゆみまらゆる庭のまゆる人馬

多右

とくゆるの息よまらゆる競る人

士朗

水珠日 障りまらゆる水極る日ま著と笠

水成

白きや川も碑日の人あめ
 水枯や盆のせり茶や八
 水枯やいそぎ茶葉うん
 干物の者もせんけ枯
 水枯くおきらると今物
 水枯くお母け也あとの葉
 水枯く根をゆきくとやけり
 水枯く川よかけり樹の
 水枯く日とやうの種よけり
 水枯く打ぬきとけりけり

其角
 野坡
 以之
 西湖
 多よ
 南枝
 史子
 蒼窓
 永光
 亭
 右老

虎雨

虎の袖そとあやうら降る候
 降るの中うも名や虎り雨
 淋しきや虎の目か雨う
 八音漸や泣さめるとい虎の雨
 花菖蒲 おあやめ五尺の露とあけられ
 四池も候少なきけりおあやめ
 石菖蒲 石苔もよれ草うん魚乃鐘
 藻花 藻の毛もつうのけり網の魚
 道辺乃刈藻とれとく雪の雨

葛古
 東溟
 鬼貫
 一考
 土芳
 其角
 曉臺
 一映
 三浦人
 護物
 是村

岸

岸のむらびりしむらびり
 岸のむらびりしむらびり
 岸のむらびりしむらびり
 岸のむらびりしむらびり
 岸のむらびりしむらびり
 岸のむらびりしむらびり
 岸のむらびりしむらびり
 岸のむらびりしむらびり
 岸のむらびりしむらびり
 岸のむらびりしむらびり

軍更
 舎用
 凡兆
 凡兆
 知足
 燦羽
 乙由
 子代
 高淵
 茶新
 一映

海濱

おもたすも田子の敷
 浜のむらびりしむらびり
 浜のむらびりしむらびり
 浜のむらびりしむらびり
 浜のむらびりしむらびり
 浜のむらびりしむらびり
 浜のむらびりしむらびり
 浜のむらびりしむらびり
 浜のむらびりしむらびり
 浜のむらびりしむらびり

河骨

河骨の二本くくや
 河骨の二本くくや
 河骨の二本くくや
 河骨の二本くくや
 河骨の二本くくや
 河骨の二本くくや
 河骨の二本くくや
 河骨の二本くくや
 河骨の二本くくや
 河骨の二本くくや

真菰

真菰のむらびりしむらびり
 真菰のむらびりしむらびり
 真菰のむらびりしむらびり
 真菰のむらびりしむらびり
 真菰のむらびりしむらびり
 真菰のむらびりしむらびり
 真菰のむらびりしむらびり
 真菰のむらびりしむらびり
 真菰のむらびりしむらびり
 真菰のむらびりしむらびり

素堂
 如行
 雨吟
 嵐蘭
 逸洲
 素堂
 夢村
 山馬
 僕物
 慈光
 邑姿

空陽花の赤や地まもむの赤と
 空陽花や赤き花の赤く門の格
 空陽花の赤やまうり津白
 空陽花や洗ひとる今赤雨
 空陽花やまうり山はくま
 空陽花の遠くまうり境りま
 けりまうりまうりや推り花
 又まうり津白のまうりや推り花
 母の人まうりまうりや中軒の栗
 湖のまうりまうりまうりやうり
 栗花

梅室
 卓池
 白栂
 素栂
 碧栂
 三河人
 里妻女
 七世
 荒弾
 際栗

梅檀花
 山梔子
 南天花
 せんえんのむきまうりや笠のうら
 山梔子のむや西むく姉女部屋
 口がりのむ、赤いけり門の雨
 南天のむまうりまうりふねうら
 南天のむのむまうりまうりうら

栗花
 赤栗
 手栂
 手池
 水舞
 双鳥
 梅室
 謹物
 七世人
 一映
 石鹿

花 柘榴

赤くてもさる白の赤やむ柘榴
流河流やまぬ橋も茶の白ひ

唐厚
くも

花 橋

白くてもさる橋の赤くもそ
たちと赤やまの橋くもさる

鬼貫
本因

橋

橋のつかひあはれあはれ
橋や月夜とせられ浮世久く

新江
斎園

十葉

とくくもさるものもさる
瞿麦 推子や花給ふ人をさる

風調
越人

推子

推子よらんく干きや川より
推子のさる赤の節のさる

菟菜
稗雅

推子

推子のさる赤の節のさる
推子やわくくもさる

菟菜
菟菜

推子

推子やわくくもさる
推子や袖 産ひ折橋久く

菟菜
双鳥

常夏

常夏の赤もさるけり
常夏の赤もさるけり

一映

石井

石井やまぬもさる
石井やまぬもさる

成美

月代

月代と推釣羊のさる
月代と推釣羊のさる

菟菜
菟菜

推釣

推釣の赤もさる
推釣の赤もさる

菟菜
里妻

ジユ
ヤリ
十テ
シコ

カイ
ツリ
サウ

薄葉 若けきく薄の葉をいふれけり
 若葉 若くは若葉の葉をいふれけり
 一葉 ひとりの葉の葉をいふれけり
 霞蓋子 霧の蓋子といふれけり
 いちこととていふれけり
 谷川 やいちこととていふれけり
 葉実 葉の實をいふれけり
 藤実 藤の實をいふれけり
 藤の實をいふれけり

是表
 三峽
 道表
 一合
 史邦
 牡若
 柳居
 一風
 一映
 鬼貫

若井 若くは若井の葉をいふれけり
 一板をいふれけり
 標 標の葉をいふれけり
 若梅 若くは若梅の葉をいふれけり
 實をいふれけり
 若んといふれけり
 紅の標をいふれけり
 若くは若梅の葉をいふれけり
 若井の葉をいふれけり
 一板をいふれけり

杜國
 丁也
 柴人
 梅室
 純可
 子瑞
 文子
 宗因
 仙花

美井やあの中そのそり合
 美井の清き水や七ツ筋
 美井や根下跡のそり合
 美井や朝のそり合
 美井のたそひのそり合
 美井や壁ぬり整へぬ家
 美竹をわけりて風の葉内へ那

和泉
 東素
 繡鶴
 由誓
 心河
 在尔
 文鯉
 二之
 梅室
 延月

今年竹

雪のそり合の清き水今年竹
 秋風をわけりて起る竹今年竹

梅室

松竹の中や風の中今年竹
 もこれ合するを清ぬ今年竹

梅山

親竹のそり合今年竹
 推櫓の中や生ぬ今年竹

素和

石垣やととと今年竹
 壁あわの竹の中や今年竹

素樸

風あわのそり合今年竹
 結搦を天幕とちりぬ竹乃波

子代

瓜花

瓜花のそり合今年竹
 二つまのそり合今年竹

一映

蔓先のそり合今年竹
 蔓先のそり合今年竹

素柳

むらぎのありともくひんをくけ

黄山

天瓜花 けしき瓜とくしきくしきむらぎの敷

三峽

早稲草 ありともくしきくしきくしき

如流

早苗 西く東くすくす苗も風の音

其角

けしき上笠の中や早苗とく

利牛

子と鯉親とてくしきく早苗舟

落楳

苗の色とくしきくしきくしき

一具

月細くすくしきくしきくしき

梅室

山の日を襟とくしきく早苗衣

梅通

草中へ流さくしきくしきくしき

草池

けしきくしきくしきくしき

標山

あけんとくしきくしきくしき

抱傷

梅くしきく早苗の文や川むら

山外

田植

田一板梅くしきくしきくしき

古袋

梅くしきく急餅くしきくしき

其角

茶室の笠とくしきくしきくしき

交考

梅くしきく早苗の尻の田一板

雪鶴

隣田へ片足の中梅仕舞

永保

朝霧よ茶の茶室くしきくしき

茶静

起すれくしきくしきくしき

船心

春月の板とくしきくしきくしき

許六

京のやき月の田植のゆき中
 ありし白鳥人合せし田植の
 とりききてと嫁たりし田植の
 具吹らけしきりし里能田植の
 植る田もくくぬききりし
 つまきし大名様む田植の
 汐のさし田を男能く植る
 山あり候ひ合せし田植の
 定ぬき居れはきりし田植の
 手まさしし別きし植る
 植る田もくくぬききりし
 手能くぬきし田植の
 植る田もくくぬききりし
 乙名の遠の恵あり田植の
 手元より風のそまきし田植の
 手能くぬきし田植の
 植る田もくくぬききりし
 阿能くぬきし田植の
 植る田もくくぬききりし
 届然田植るきりし田植の
 家庭の敷ぬけてぬき田植の

卯七
 乙由
 有人
 白海
 黄山
 概号
 西月
 今是
 波同
 堅菜
 史子
 芥余
 茶新
 乙良
 藤母
 尾橋
 朵峰
 菜和
 梅室
 沙路
 奈池
 丁古

田植分

梅々々々山田を唐の邊にける
侍舟のききき田植の
風流のききき田植の
山のけや人目おきき田植の
まききや世おきき田植の
おきききききき田植の

早乙女

早乙女おきききき菜飯の
おきききききき其隣
早乙女おきききききき
早乙女の馬叱りききき
早乙女の袖おききききき

おききききききききき
早乙女おききききききき
田植おききききききき
おききききききききき
わききききききききき

流苗

何まききききききき
わききききききききき
初まききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき

蟬

まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき
まききききききききき

士朗

葛三

まき

荻左

正秀

由誓

卷雪

百里

右丞

和戒

南枝

二丘

荻丸

大江丸

籬唐

榮和

寛松

五郎

まき

鉤葱

宗因

鼠空

唾塚のたぐぬ指もあそんれかり

月代と夢とんく船をせいの餅

魚坂やいそと岩居坪のいそ

風のそといそく、竹上はれつもの

日守りおれり一巻もやあつてせ

越よき成の志をこや塚の志

塚の志をこや山乃雨

木常の志をこや一巻もあつてせ

里とつたつや河原と塚の志

外藪や木つたあれハ塚の志

塚の志をこや雨と

世と帝や昔の志をこや

日と西や世と指と

けり井へ来て啼とけり

塚の志をこや

世と帝や昔の志をこや

あそんれかり

空蝉

塚の志をこや

新の志をこや

志の井とけり

杉風

正倉

知月

氷粉

抱佛

古砥

木本

景文

杜有

碧之

一仙

新年

外外

風也

多よあ

馳岳

子格

一井

旬空

木本

丁心

義をいへば物にふくむるも
 去りてゆくものなりや花の
 年と木も常くさや水の
 牛部をよる屋にさすの
 二つそれ一つを居る
 水降るまゝくさく飛ぶ
 手のひらに這せくぬま
 田のわたりをくさす
 されはくさくさぬ
 年のまゝに風を
 松のまゝに風を

嵐雪 文子 西秀 言水 多良 緋鶴 永保 北枝 川史 左渡 筆直
 松前 旭伽 尾橋 来美 素明 寺修 仙里 花外 流芝 弟吹 吉布

松のまゝに風を
 松のまゝに風を

松前 筆直

馬のまゝに風を
 馬のまゝに風を
 馬のまゝに風を
 馬のまゝに風を
 馬のまゝに風を
 馬のまゝに風を
 馬のまゝに風を
 馬のまゝに風を
 馬のまゝに風を
 馬のまゝに風を

松前 旭伽 尾橋 来美 素明 寺修 仙里 花外 流芝 弟吹 吉布

鴨子 鴨の子は生れしより月取られ
夏鹿 鹿の親條より風上座にけり
鹿子 灌佛の日に生れ合鹿子これ

矢の巾より親の乳をのむ鹿子茶
破垣やわさき鹿子茶通ひ路
石より臭のせき老あし鹿子茶
畑あまといけけのふくぬ鹿子茶
眼くまりの子親よ似る鹿子茶
竹の中をまき過つて鹿子茶
親に似く月より川鹿子茶
馬の子と白ひ喰合鹿子茶

通鴨 餅より臭を食せしより通鴨
物懼をせぬ服くらりや通鴨
一やまうさくらりより通鴨
照射 照射又よ灌佛の上まきまひけり
折角と消くるとありとありけり

芳之 一茶 立志 旨良 寸長 得所 甚麻 乙二 梅室 茶静 洗身 菜年 蝶二 鳥名 杜葵 杜角 流芝 繡袴 松風 士朗

夏

六十三

下
七

火車

言書の灯生わろる火車うれ
 松の葉のちるるうろる火車うれ
 霞をまよもく入生串の那
 明跡の生串や風のいわり
 雲中を撮這よる生串うれ
 干飯や夕ぐれつる礫乃家
 有無日
 夕まのかしら入つる津つり
 双六のおまよひ世はソリうれ
 雨のあー白起を入梅のぬり
 入梅

龜洞
 雲帆
 采衣
 角上
 苦丸
 惣皮
 小聖人
 文學
 胡乃
 表学
 清長

梅雨晴

梅雨晴
 梅雨晴や梅つるぬ門うれ
 梨子柳下露の居つる梅雨晴
 雨とまよかかへ一教を五月
 五月曇 やまよまよ五月うれ
 五月空 孝山や朝かき五月うれ
 五月空 舞坂や園の五月終めく馬
 綱打やとれはまよ五月や
 先達のうみ世を五月空

寸長
 楠山
 籠屋
 夢右
 味舎
 素柳
 梅間
 三侍人
 其角
 雪芝
 山店

短秋や梧の結目よりくま川流
 短秋といふは雀のあきまけん
 短秋や玉江の芦のつあし
 短秋やそれ人言能き時
 短秋や築地の古鼓せきり鐘
 短秋や少くも少くも嵐か
 短秋はたけくぬかえくこれ
 明易秋 明くく秋のうらや木々の月
 明易秋とて見乃病の那
 明の秋はく禁室の明や
 明の秋はく禁室の明や

多よあ
 保青
 梅室
 北枝
 素伯
 氷七
 月居
 几葎
 白雄
 冬招
 岱堂

反秋 反の秋やうつれく明の冷きもの
 反の秋はく梅の秋の秋の秋
 反の秋はく土着ぬれり明のけり
 反の秋はく短きまきまきり
 反の秋はくあはれ秋の旭の那
 反の秋はく空を飛ぶも明のけり
 反の秋はくあはれ秋の旭の那
 反の月 反の月 津油より出る赤坂也
 明のく家の伏んや反の月
 反の秋はく東をがく月を西

梅室
 ちせ溪
 其角
 成美
 永年
 成美
 梅室
 寒松
 ちせ溪
 嵐雪
 宗因

廿二
又

帷子能背巾の暑き夕日くぬ
 帷子や一板越せぬゆき常
 過る花 みる子や浴するはくは
 垣越しちちのちとるはくは
 居住居ようはか子や出くは
 薄羽織 ぬかたきく居るは薄羽織
 晒布 空坪の暑き人けり晒川
 布きくは布ぬきのぬきくは

洗家
 東溟
 平心
 蒼意
 堀二
 里妻女
 護物
 三峽

發句萬題集夏之下

冬至庵庚年 輯
八雲東溟 校合

六月や草まきおくあし山
 六月や舟くたくる酒乃銚
 六月や薄乃温くはく物
 六月や夕板ぬかひく風情
 六月や死ねぬきかきけり
 六月や結多き昼乃そら
 つけり尺竹まき月能高屋れ

三世派
 秀南
 万和
 寔松
 三浦人
 蒼丸
 蒼堂

夏 三乙

水無月 六月や好と夕を極乃そり

五渡

水無月 水無月や綱はあれを遠く

水無月

水無月 水無月や屋根ふた身を共し

水無月

水無月 水無月の一軒はあやあやり雨

水無月

水室 水の奥水室は杉柳の那

水室

水室 水室はあやあやり水室山

水室

水室 水室はあやあやり水室古

水室

水室 水室はあやあやり水室

水室

水室 水室はあやあやり水室

水室

水室 水室はあやあやり水室

水室

水室 水室はあやあやり水室

水室

水餅 水餅はあやあやり水餅

水餅

水餅 水餅はあやあやり水餅

水餅

水餅 水餅はあやあやり水餅

水餅

水餅 水餅はあやあやり水餅

水餅

水餅 水餅はあやあやり水餅

水餅

水餅 水餅はあやあやり水餅

水餅

水餅 水餅はあやあやり水餅

水餅

水餅 水餅はあやあやり水餅

水餅

水餅 水餅はあやあやり水餅

水餅

水餅

杉風も打込む祇園もや
家子もよきしよれん二辨乃見

英父丸

嘉定

十六橋宛亮一也

大江丸

富士詣

志くききり 志ききききり

其角

角帽子雪の調むや不二詣

素堂

明のくききり

沾湖

巳くききり

由誓

下戸連なり

小圃

平福の穂を捲く

右残

土用

土用のくきを巻く

許六

初まつのむき土用の入

杉風

土用干

くききり

其角

ありかきり

杉風

鑑るくきり

玄来

るくきり

由誓

縄つり

業

次ぐきり

梅室

かり物と見付

貞祇

具是是くきり

洗我

虫干やせ丸く

蕭山

夏

三二

暑

虫干や修竹のまきさの縁
 虫干や世にあら人のあつらじ
 虫干や山に裾うへへし
 虫干は若中よあつら修竹
 虫干や牛の尾葉を飛たす
 虫干のりよ嫩き竹のまや
 虫干の目よまきさのまきさの柳
 虫干日をもつらまきさの柳
 虫干のりや世のまきのあつら
 暑きまきさをあつらまきのあつら

手 縁
 百 明
 南 枝
 若 雨
 右 坂
 柳 居
 嵐 雪
 武 陵
 鬼 貫
 車 扇
 汗 六

焼き腐るまきさのまきさの柳
 照付まきさのまきさの柳
 かんつけのまきさのまきさの柳
 まきさのまきさのまきさの柳
 三日月よまきさのまきさの柳
 うつらまきさのまきさの柳
 相のまきさのまきさの柳
 柱まきさのまきさの柳
 修竹のまきさのまきさの柳
 照つらまきさのまきさの柳

汗 六
 宗 園
 嵐 雪
 鬼 貫
 通 南
 一 具
 梢 山
 孤 屋
 右 坂
 葦 母
 里 橋

夕まや 此の燈の灯乃一ツ 子松

白鳥のけりや 暮さうそ 暮さうそ 犬 犬

夕まよ 羽根密志くく 鳥の卵 心阿

夕まの月を 清さぬ 暮の影 柳居

夕まのこもけ 移まのやまのこ 昌房

白鳥のけりや 暮さうそ 暮さうそ 利牛

夕まや 暮さうそ 暮さうそ 暮さうそ 暮村

夕まや 暮さうそ 暮さうそ 暮さうそ 暮村

夕まの影 暮さうそ 暮さうそ 暮さうそ 暮村

夕まや 一人もぬ 暮さうそ 暮さうそ 暮村

夕まや 世の暮さうそ 暮さうそ 暮さうそ 暮村

夕まよ 退き 暮さうそ 暮さうそ 暮村

夕まの暮さうそ 暮さうそ 暮さうそ 暮村

夕まや 古き湯を 暮さうそ 暮村

夕まや 早き 暮さうそ 暮村

夕まよ あつ 暮さうそ 暮村

夕まのけりや 暮さうそ 暮村

夕まや 西月を 暮さうそ 暮村

夕まや 感 暮さうそ 暮村

夕まより 先 暮さうそ 暮村

夕まや 山に 暮さうそ 暮村

夕まや 山に 暮さうそ 暮村

夕まや 山に 暮さうそ 暮村

夕まや 山に 暮さうそ 暮村

夕まや 山に 暮さうそ 暮村

夕まや 山に 暮さうそ 暮村

湯より舟人の空扇の揺る風
古里や空もとくぬたあり
子能強き空の舟に揺る
掃除きく空も揺る人空の
打之くくくかきく空の
空扇扇もくく空の
掃除きく空の舟に揺る
秋の田能空くく空扇か那
空の舟に揺る空の舟に揺る
汗拭 玉笹の園も空の舟に揺る
汗 空の舟に揺る空の舟に揺る

流芝 九起 柳壺 二 壯實 一兆 我竟 梅室 空 道夫 嵐雪

掛香 かけ香や 唾能娘人とけり
日傘 追つけを捲くきれ日傘の
翼日能扇もくく日傘の
さくさくさくさくさく日傘の
掃除きく空の舟に揺る
空の舟に揺る空の舟に揺る
空の舟に揺る空の舟に揺る
空の舟に揺る空の舟に揺る
空の舟に揺る空の舟に揺る
空の舟に揺る空の舟に揺る

空村 乙二 塞馬 波同 大阿 文昇 其角 百明 梅通

休婦人

母能去うお年よのうぬ草
そはえんまきくつ敷也休婦人
休婦人懐く抱やたまこ盆
此君と新し引よ世の休婦人
有輝のまらまら似も休婦人
休婦人月と梅より入よけり
留るはるや白よりかき休婦人
抱 籠 や梅よりく月結よ
休 奴 人 其くく癖く岩けり休奴
籠 枕 まくく美くくくくく人
籠まきくけくくくくくくく

襟二
卯七
為白
暮古
可都里
朱翠
梅室
慈光
丈左
舌舌
五葉

涼 臺

涼 臺 以の臺屋お臺まも臺のけり
人睡くくくつ籠やぬ涼臺
涼臺まきく此よりきりく
角カとりの上り魚くりり涼臺
以のあをけりくつ此の涼か那
まきくむくくお臺まきくくつ此の涼

涼 白
一 幽
真松尾
一 帰
他カ
語各

涼

涼 破食くくくくくくくくくく涼
まきく表を憐れくくくくみれ
志くぬ人を遠問答けりみく那
大上遊丸も遊くお涼か子
涼くくこのかきくくくくくくくく

まきく
去 来
鬼 費
鼠 堂
真 室

烟を中涼しき人の性、居る
 いと静く坐る、心あつく涼しく
 雲を中涼し、静にまよふ人
 涼しきや、見ぬ中、海に静
 まつ、よき、おののちまみ
 涼しき、涼しき、まを、静にけり
 けり、ま、涼しき、静に、かき
 涼しき、ま、静に、ま、静に、ま
 川を、ま、静に、ま、静に、ま
 涼人も、ま、静に、ま、静に、ま

梅令
 松軒
 清所
 清堂
 一肖
 惟孝
 西月
 繼子
 養旦
 蓮陽
 榮人

打水

水のやと、水を手、ま、涼
 水、静に、ま、静に、ま
 門を、静に、ま、静に、ま
 水、静に、ま、静に、ま
 水、静に、ま、静に、ま
 水、静に、ま、静に、ま
 水、静に、ま、静に、ま
 水、静に、ま、静に、ま

梅令
 一画
 梅室
 芥舎
 手格
 由誓
 茶静
 乙由
 其角
 五徳

法水くくく病引高きとれ危
 路まゝくくく若法水
 火焚屋のくくく汲汲法水
 鏡持の人れくくく法水
 葉内くくく扱く法水
 晒井くくく井や浮世を扱く心
 晒井くくく井や男集於大長屋
 晒井くくく井や静里くくく水の去
 晒井くくく井や常多くくく雷の如
 一表酒 一表きけくくく筆のくくく川
 人くくく百ぬくくく一表酒

其流 桃寺 卓池 曲阜 丁知 荒雪 淡々 百明 荳若 道彦 杜賢

心

心 古 法水のくくく汲く心古
 唯礼のくくく本のくくく心古
 軒 並くくくや 麓のくくく心古
 あくくくくく水のくくく心古
 松花美をくくくくく心古
 殿り馬 扱くくく心古
 心古あくくくく心古
 若水くくくくく心古
 若水くくくくく心古
 若水くくくくく心古
 若水くくくくく心古

茶静 其角 子格 二丘 秋之塔 空務 由誓 若村 若水 月夜

藜

中へに去るももりて正日紅
 雨を新風もかたりけり赤日紅
 日よりの心もあらしぬ正日紅
 やよりせん藜の枝もけり日よき
 元政の軒かたりけりあらし紅
 枝を新風もかたりけりあらし紅

桑柳 柳塙 山 西鶴 惟然 正秀 巴山 万子 完来 幽喟

苔

苔を兼やあもそりけりあらし紅
 苔を兼やあもそりけりあらし紅
 苔を兼やあもそりけりあらし紅

正秀 巴山 万子

凌霄花

凌霄花や日よあかきけりあらし紅
 凌霄花や日よあかきけりあらし紅

完来

蘭花

蘭の花やけりあらし紅
 蘭の花やけりあらし紅

幽喟

梅

二月のいつくさもけりあらし紅
 二月のいつくさもけりあらし紅

一笑

夏草

夏草やけりあらし紅
 夏草やけりあらし紅

桐雨

青芒

青芒やけりあらし紅
 青芒やけりあらし紅

一映

釣鐘子

釣鐘子やけりあらし紅
 釣鐘子やけりあらし紅

城人

紫 草	白 雉	三 津 人	月 化	台 粘	知 流	来 山	快 外	凉 菟	摩 晨	梅 室
紫草	白雉	三津人	月化	台粘	知流	来山	快外	凉菟	摩晨	梅室

蓮 花	夏 薺	鼓 子 花	綿 花	夏 薺	鼓 子 花	綿 花	夏 薺	鼓 子 花	綿 花	夏 薺
蓮花	夏薺	鼓子花	綿花	夏薺	鼓子花	綿花	夏薺	鼓子花	綿花	夏薺

夏
秋

